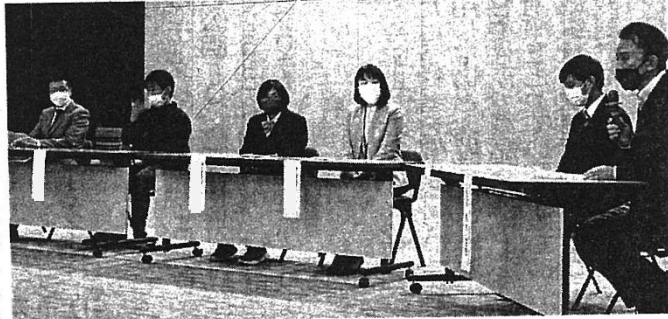


# 「人呼ぶ対策」実例に学び

## 丹波篠山・獣がいフォーラム



パネルディスカッションで、獣がい対策について意見を交わす参加者—丹波篠山市の市民センターで

獣害対策を通じた地域振興について考える「第4回獣がいフォーラム」が10日、丹波篠山市の市民センターで

開かれた。サルの出没を防ぐために収穫した柿を使ってスイーツを作った高校生をはじめ、大学生、小学校教

諭ら、<sup>多</sup> 且い手がそれぞれの実践例を紹介。参加者は熱心に報告に聴き入っていた。丹波篠山市やNPO 里地里山問題研究所、市内の高校などでつくる実行委が主催。シカやニホンザルといった野生動物による農作物被害を「書」ところえず、地域課題と共に解決して、地域の活性化につなげようとの思いを込め、「がい」とひらがな表記している。フォーラムでは、専門家によるアドバイスで、効果的に柵を設置してアライグマによる食害を防ぎ、地域特産品のスイカを栽培した

毎日新聞  
2022年1月13日

大山小学校6年生の事例などを紹介。篠山鳳鳴高校時代に獣がい対策に関わり始めたという京都府立大1年のさん(19)は「獣がい対策というと、柵の設置や頭数制限などを思い浮かべるが、ツアーを企画したり、情報をSNSで発信した

りすることも対策の一つ」と説明。「獣がい対策は、農作物を守るだけでなく、地域を守り、人を呼び込み、成長させる。多くの人に関わってほしい」と呼びかけていた。

【幸長由子】